

九州地区における OR 若手研究交流会： 2016～2018

川崎 英文

1. はじめに

2010 年度に始めた「OR 若手研究交流会」は今年度で 9 回を数えるなど、九州支部の中心的な事業としてすっかり定着しました。定年目の筆者にとって、若手云々というものはアンタッチャブルな事業で、年寄りには口出ししてはならないものだと思っていました。しかしながら、2016 年度、2017 年度の 2 年間九州支部長を務めたこともあり、ここ数年は「OR 若手研究交流会」に参加し、優秀発表賞の授与を行ったり、総評を述べたり、お酒の買い出しに行ったりしています。

さて、元支部長の丸山幸宏さんが本誌 [1] で述べているように、10 年ほど前、九州支部の会員数は毎年 1 割程度減少し、2008 年度には 130 名ほどになっていました。これは学会全体の傾向でもあるので、致し方ないことかもしれませんが、九州支部が抱えていた問題点は学生会員が少ないことで、1 桁のときもありました。そこで、学生会員を増やすことを目標に掲げ、九州支部の事情に合った形態で若手研究交流会を実施することになり今日に至っています。

一口に若手研究交流会と言っても、さまざまな形があります。遠い昔に筆者が参加した関西支部の KSMAP や筑波のシンポジウムは研究者のタマゴである大学院生をターゲットにした研究会との印象を受けました。一方、九州支部は経済学部にも所属する会員が多いこともあり、学部生・大学院生の交流を重視する内容になっています。2010 年度から 2015 年度までの事業は、記事 [1] で詳しく紹介されていますので、本稿ではそれらをざっと振り返ったうえで、2016 年度以降の事業内容を紹介したいと思います。

2. 若手研究交流会の始まり

本事業の発起人は名古屋大学の小野廣隆さん（当時、

九州大学）と聞いています。それを宮野英次さん（九州工業大学）が強力にバックアップし、津留崎和義さん（長崎大学）、池田欽一さん（北九州市立大学）、来嶋秀治さん（九州大学）、藤田敏治さん（北九州工業大学）、吉良知文さん（群馬大学）、植野貴之さん（長崎県立大学）、山城興介さん（日本文理大学）、神山直之さん（九州大学）、傅靖さん（福岡工業大学）、山内由紀子さん（九州大学）、江藤宏さん（九州大学）、岩見昌邦さん（福岡大学）をはじめとする若手の方々が頑張って継承してきました。現在の運営形態は以下のようなものです。

- ・ 10 月下旬に 1 泊 2 日の合宿形式で開催する。
- ・ 主として九州地区の学生、大学院生を対象とする。
- ・ 学生の発表はロングとショートの 2 種類とする。
- ・ プレゼンのお手本として、若手研究者に 1 時間の特別講演を依頼する。
- ・ 最優秀発表賞 1 件、優秀発表賞 2 件程度を表彰する。その選考は若手研究者が行い、年寄りは口を挟まない。
- ・ 実行委員は若手研究者が務め、支部役員・幹事は運営をバックアップする。
- ・ 実行委員長は次年度以降の実行委員から外れてもよい。
- ・ 若手研究交流会の HP をグーグルアプリで作成し、そのノウハウを伝承する。

なお、当初は九州地区の学生を対象にしていたが、近年は案内を広く配信しています。特に、2013 年度は中国・四国支部と共同で実施しました。

3. 最初の 5 年間

2010 年度

【日程】2010 年 10 月 30 日（土）、31 日（日）

【場所】九重共同研究所（大分県玖珠郡九重町）

【実行委員長】小野廣隆（九州大学）

【参加者数】34 【発表件数】15

【特別講演】小野廣隆（九州大学）「A Linear Time Algorithm for $L(2,1)$ -labeling of Trees」

かわさき ひでふみ

九州大学大学院数理学研究院

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 7440

kawasaki@math.kyushu-u.ac.jp

2011 年度

【日程】2011 年 10 月 29 日（土）、30 日（日）

【場所】島原共同研修センター（長崎県島原市）

【実行委員長】津留崎和義（長崎大学）

【参加者数】33【発表件数】15

【特別講演】津留崎和義（長崎大学）「ある開発型投資プロジェクトの意思決定について」

2012 年度

【日程】2012 年 10 月 27 日（土）、28 日（日）

【場所】北九州市立大学後援会館（福岡県北九州市）

【実行委員長】池田欽一（北九州市立大学）

【参加者数】29【発表件数】13

【特別講演】来嶋秀治（九州大学）「確率と計算」

2013 年度

【日程】2013 年 10 月 26 日（土）、27 日（日）

【場所】きらら交流館（山口県山陽小野田市）

【実行委員長】来嶋秀治（九州大学）

【参加者数】29【発表件数】13

【特別講演】井上真二（鳥取大学）「ソフトウェア信頼性評価におけるブートストラップ法の適用」

2014 年度

【日程】2013 年 10 月 25 日（土）、26 日（日）

【場所】旅館魚半（佐賀県唐津市）

【実行委員長】藤田敏治（九州工業大学）

【参加者数】38【発表件数】15

【特別講演】吉良知文（九州大学）「野球と動的計画法」

2015 年度

【日程】2014 年 10 月 31 日（土）、11 月 1 日（日）

【場所】国民宿舎 くじゃく荘（長崎県東川棚町）

【実行委員長】藤田敏治（九州工業大学）

【参加者数】27【発表件数】13

【特別講演】稲川敬介（秋田県立大学）「救急車システムのモデル化と現実問題への応用」

4. 2016 年度以降の若手研究交流会

4.1 2016 年度

2016 年度の実行委員長は群馬大学の吉良知文さん（当時、九州大学）にお願いしました。若者に人気の由布院での開催を目指し計画を練っていた最中の 4 月 16 日に熊本地震が発生し、大分県でも余震が頻発したため、一時は由布院での開催が危ぶまれました。そのような中、「復興を応援するためにも由布院で開催したい」との吉良さんの思いは強く、福岡工業大学の宋宇さんや傅靖さんのご支援を得て、無事開催することができました。



図 1 FIT セミナーハウスのテラスにて

・日程：2016 年 10 月 30 日（土）、31 日（日）

・場所：福岡工業大学「FIT セミナーハウス」（大分県由布市）

・実行委員長：吉良知文（九州大学）

・実行委員：植野貴之（長崎県立大学）、傅靖（福岡工業大学）、山内由紀子（九州大学）、山城興介（福岡大学）

・参加者数 28、発表件数 14

・特別講演：小林正弘（東海大学）「待ち行列とランダムウォーク」

・最優秀発表賞：八木田剛（九州工業大学）「高さを限定した DAG に対する最小ブロック転送問題」

・優秀発表賞：玉谷賢一（九州大学）「ローターウォークの周期について」

FIT セミナーハウスは由布院の高台に位置する福岡工業大学の研修施設です。洒落た造りと豪華な食事に参加者全員が感激しました。

図 1 は 2 日目午前に広いテラスで撮った集合写真です。学生はご馳走を腹いっぱい食べ、ベテランはお酒をたらふく飲んで、みんな元気でした。

図 2 は研修室での発表風景です。ほどよい容量の部屋のおかげで発表を集中して聞くことができました。

図 3 の小林正弘さんの特別講演は期待した以上の内容で、学生にとってよいお手本になりました。

2016 年度は表 1 のスケジュールどおり、余裕をもって運営されました。

図 4 は八木田剛さん（九州工業大学）と筆者です。質の高い発表内容に加えて、聴衆を引き付ける天性の話術で最優秀発表賞の栄誉に輝きました。

4.2 2017 年度

2 年連続で FIT セミナーハウスで開催された 2017 年度の若手研究交流会は、名古屋から小野廣隆さんが学生を引き連れて参加してくださったほか、静岡からの



図2 発表風景

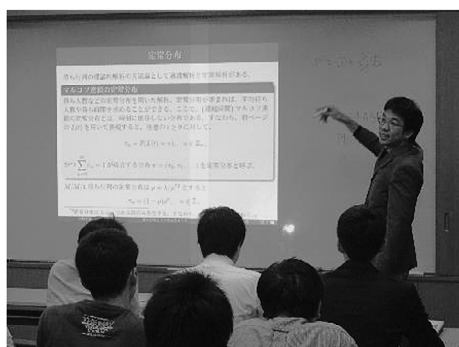


図3 小林正弘さんの特別講演

参加もあり、参加者数はこれまでで最多の 39 名を数えました。九州支部の会員は 100 名余りですので、これはかなりの人数と言えます。

実は、この年も 7 月の九州北部豪雨で JR 九州の鉄橋が流失するなど甚大な被害があり、博多や長崎から由布院に JR でアクセスできなくなりました。それにもかかわらず参加者が多かったのは、FIT セミナーハウスの素晴らしさが口コミで広がったことや、実行委員の皆さんの頑張りや、60 周年記念事業のご支援のおかげだと思います。

- ・ 日程：2017 年 10 月 28 日（土）、29 日（日）
- ・ 場所：福岡工業大学「FIT セミナーハウス」
- ・ 実行委員長：植野貴之（長崎県立大学）
副実行委員長：江藤宏（九州大学）
実行委員：傅靖（福岡工業大学）、山内由紀子（九州大学）、山城興介（日本文理大学）
- ・ 参加者数 39、発表件数 17
- ・ 特別講演：吉良知文（群馬大学、九州大学）「きょうだいを考慮した保育所マッチングと展開形ゲーム」
- ・ 最優秀発表賞：野々上夏葵（九州工業大学）「最大支配頂点集合問題についての研究」

表1 2016 年度のスケジュール

初日	
13:15～13:25	開会
13:25～14:15	発表 3 件
14:30～15:30	発表 3 件
15:50～16:40	発表、2 日目登壇者の自己紹介
16:55～17:45	特別講演
17:45～19:00	フリータイム
19:00～20:00	夕食
20:00～22:00	懇親会
2 日目	
7:30～ 9:00	朝食
9:20～10:10	発表 3 件
10:25～11:20	発表 3 件
11:40～11:50	表彰式と総括

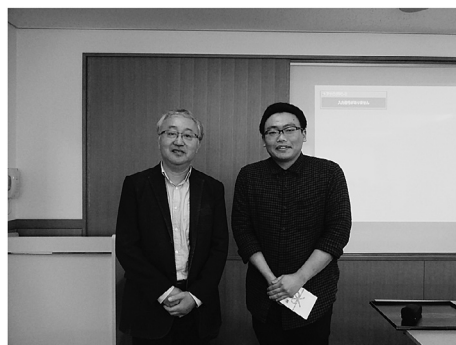


図4 右が最優秀発表賞の八木田剛さん

・ 優秀発表賞：

高木祥多（静岡大学）「2 段階 DEA によるプログラムコンテスト敢闘賞決定」

山口大貴（九州大学）「ピンホール折り紙の構成法」

この年は実行委員長の負担を軽減するために、江藤宏さんに副実行委員長として HP の作成と管理をお願いしました。参加者数も発表数も多かったのですが、事業資金が潤沢なうえに、勝手知ったる FIT セミナーハウスでの開催ということもあり、表 2 のスケジュールで成功裡に若手研究交流会を実施することができました。

由布院盆地では秋深まる早朝に図 5 のような朝霧が沸き上がります。文字どおり心洗われる風景でした。

4.3 2018 年度

今年度は日本文理大学の山城興介さんに実行委員長をお願いしました。3 年連続で由布院での開催となり、会場は図 6 のように由布岳を臨む日本文理大学湯布院研修所になりました。本研修所も熊本地震でコテージが倒壊するなどの被害がありましたが、今年度に復旧もあり、広々とした天然温泉で寛ぐことのできる、前

表2 2017年度のスケジュール

初日	
13:30～13:40	開会
13:40～17:20	休憩を挟んで発表 11 件
17:30～18:20	特別講演
18:20～19:00	フリータイム
19:00～20:00	夕食
20:30～22:30	懇親会
2 日目	
7:30～ 9:00	朝食
9:30～11:20	休憩を挟んで発表 5 件
11:45～11:55	表彰式と総括

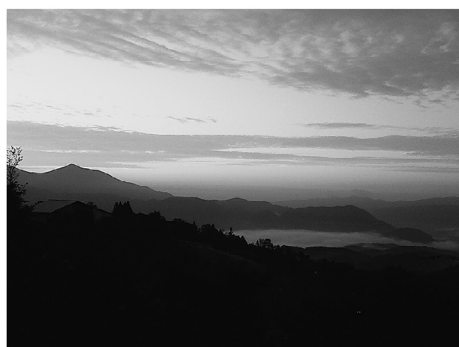


図5 FIT セミナーハウスからの朝霧の眺め



図6 日本文理大学湯布院研修所にて由布岳を背景に

評判どおりの研修施設でした。

- ・ 日程：2018 年 10 月 27 日（土）、28 日（日）
- ・ 場所：日本文理大学湯布院研修所¹（大分県由布市）
- ・ 実行委員長：山城興介（日本文理大学）
副実行委員長：岩見昌邦（福岡大学）
実行委員：傅靖（福岡工業大学）

¹ 由布岳，JR 由布院駅，由布市湯布院町，湯布院映画祭など、「由布院」と「湯布院」の表記があります。ご興味のある方は，Web で使い分けとその経緯を検索してください。

表3 2018年度のスケジュール

初日	
15:30～15:40	開会
15:40～16:40	発表 4 件
16:50～17:40	特別講演
17:40～19:00	フリータイム
19:00～	夕食と懇親会
2 日目	
8:00～ 9:00	朝食
9:30～11:20	休憩をはさんで発表 5 件
11:40～12:00	表彰式と総括



図7 平山克己支部長から張凱さんに最優秀発表書の賞状が手渡されました。副賞は楽天のギフトカードです。

- ・ 参加者数 19，発表件数 11
- ・ 特別講演：山城興介（日本文理大学）「複合商業施設入館者数の日次時系列データを使ったイベントとの関連性の抽出について」
- ・ 最優秀発表賞：張凱（福岡工業大学）「An improved flow-based location model for hydrogen refueling stations」
- ・ 優秀発表賞：吉村純弥（九州大学）「 $2 \times n$ 型 2 部グラフ上のパリティゲームに対する多項式時間アルゴリズム」
- ・ 優秀発表賞（学部生部門）：谷山穂乃花，田中奈津美（北九州市立大学）「長さ測定アプリの開発について」

傅靖さんのご指導により，福岡工業大学の学生さんが毎年何人も参加しています。今年度の最優秀発表賞は図7の張凱さん（福岡工業大学）に授与されました。

なお，今年度は事業資金が10万円と，前年度の1/3でしたので実行委員の方々のご苦勞に頭が下がる思いです。

5. まとめ

合宿形式の研修はやはり楽しいです。高校の同級生

との再会に驚いたり、2日目の朝に「実は、私の父は…」などとカミングアウトされたり、寝食をともにする合宿ならではの出来事を通して交流が深まりました。学生はあまりお酒を飲まず、私の知らないカードゲームに興じ、若手教員はしっかりお酒を味わった後、ゲームや日本シリーズ中継に一喜一憂していました。筆者は露天風呂で星空を眺めながら疲れを癒し、翌朝は鳥のさえずりに誘われススキや紅葉を愛でながら散歩で寛ぎました。参加者はそれぞれの流儀で合宿を楽しんでいたようです。

振り返ると、筆者の学生時代にはこのような交流はほとんどありませんでした。世話人を務める必要もなく楽だったのは事実ですが、狭い世界で齢を重ねてしまったような気がします。九州支部では若い実働部隊

の数が減っているため、実行委員の方々はお世話が大変だと思いますが、経験値を上げ視野を広げる機会と捉えていただけるとありがたいです。

謝辞 若手研究交流会に3年関わり、実行委員の皆様のご苦勞を目の当たりにしました。最後になりましたが、長年にわたり実行委員を務めてこられた九州支部の若手研究者の皆様に深く感謝申し上げます。また、本事業の趣旨をご理解いただき、ご支援くださいました研究普及委員の皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- [1] 丸山幸宏, “九州支部の発展をめざして,” オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学, **61**(3), pp. 157–160, 2016.